

「別海医療サポート隊 い い どうゆう 医良同友」について

(社) 北海道中小企業家同友会 釧根事務所

1. 医良同友のあゆみ

2009年8月	2010年度から町立別海病院の小児科医が不在になるとの話が持ち上がる。背景には医師と医療スタッフの過酷な労働実態があり、地域の医療を守り、地域経済の衰退を防止する観点から、医師の暮らしをサポートする町民組織の設立を(社)北海道中小企業家同友会南しれとこ支部別海地区会が決議する。その後同会会員を中心に、町民約100名が参加申し込み。
2009年11月	29日に「医良同友」設立総会を開催。別海病院の医師・看護師と町民約140名の参加でスタート。
2009年12月	医良同友メンバーが別海病院前に入院患者・外来・スタッフのためにイルミネーションを設置する。
2010年1月	26日に役員会を開催。会員登録300名を達成。 30日に医師・看護師と町民の交流会を開催。 ^{ばらさんとう} 茨散沼にてワカサギ釣りを楽しむ。55名が参加。
2010年5月	11日に役員会を開催。
2010年6月	24日に総会を開催。

2. 「別海町中小企業振興基本条例」とのつながり

北海道野付郡別海町は2009年4月1日に、全国の町村で初めて「中小企業振興基本条例」を制定・施行した。制定にあたっては同友会南しれとこ支部別海地区会・別海町・別海町商工会の三者で1年にわたる協議を重ね、2009年1月に提案書を町長に提出、同年3月に議会で可決・制定された。

医良同友設立の背景には、過酷な労働環境から体調を崩し、地域を離れる医師が増えることで医療体制が崩壊し、町の人口減、地元中小企業の経営環境の悪化するとの見通しがあった。条例前文に「活力あふれる別海町を築くための中小企業の自助努力と町・事業者・経済団体・町民のパートナーシップによる中小企業振興」が謳われており、医良同友の活動は、別海町中小企業振興基本条例の理念とも合致した内容になっている。

「別海医療サポート隊 い い どう ゆ う 医良同友」の発会について

2009年8月17日

一般社団法人 北海道中小企業家同友会

南しれとこ支部 別海地区会

○趣旨 別海町で企業を営む経営者にとって、従業員やその家族、町で働くお客様の健康を守ることが愁眉の課題です。私たちの健康は別海町立病院の医師や医療スタッフの皆さんによって支えられています。別海町立病院の医師やスタッフ、札幌医大医師や札幌医大学生との交流活動を通して、皆さんに別海の魅力を理解していただき、末永くこの地で医療活動続けていただく環境づくりをしたいと考えています。さらに札幌医大の地域医療活動にも貢献したいと思います。

○発起人代表 一般社団法人 北海道中小企業家同友会南しれとこ支部
別海地区会 会長 寺井範男

○発起人 一般社団法人 北海道中小企業家同友会 別海地区会幹事19名

○活動 交流事業（食事会・カヌー・釣り・狩猟・キャンプ・音楽会など）
学習活動（医師の講演）
札幌医大の地域医療活動への協力（医療調査研究活動）

○対象 別海町市民100名の賛同を目指す

○会費 行事の都度、参加者から実費を集める



い い どうゆう 「医良同友」に入会しませんか

皆様におかれましては益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。

さて、別海町で企業を営む経営者にとって従業員やその家族、町で働くお客様の健康を守ることは重要な課題です。私たちの健康は別海町立病院の医師や医療スタッフの皆さんによって支えられています。

昨今のマスコミ報道では、患者の安易な時間外の受診による医師の疲弊や、医師の引き揚げによる地域医療の崩壊が広がりを見せると共に、地域医療に従事する医師の不足や診療科の偏在など、病院の診療体制の維持が困難になってきています。

私たちは、町立別海病院の医師やスタッフ、札幌医科大学の医師や学生に、交流活動を通して別海の魅力を理解していただき、末永くこの地で医療活動をしていただくための環境づくりをしたいと考え、別海医療サポート隊「^{い い どうゆう}医良同友」を立ち上げました。

本会の趣旨にご賛同いただき是非会員として加入されますようお願い申し上げます。

2009 年 11 月吉日

^{い い どうゆう}
別海医療サポート隊「医良同友」

会長 寺井 範男

(一般社団法人 北海道中小企業家同友会
南しれとこ支部 別海地区会 会長)

TEL 0154-31-0923

FAX 0154-31-0944

別海町医療サポート隊 「医良同友」規約

(名称及び事務局)

第1条 この会の名称を「別海町医療サポート隊 ^{い い どうゆう} 医良同友」(以下、「医良同友」と称し、事務局を釧路市光陽町 1 1 - 7 (一般社団法人 北海道中小企業家同友会 釧根事務所内)におく。

(目的)

第2条 この会は、地域医療を守るため町民と医師のコミュニケーションを図り、相互の親睦と交流することを目的とする

(会員)

第3条 この会の会員は、第2条の目的に賛同する「別海町民及び別海町内の企業等並びに団体」であれば誰でも加入できる。

2. この会の会員は、脱会の申出がない限り毎年自動的に継続される。
3. この会を脱会するときは、あらかじめ届出なければならない

(事業)

第4条 この会の目的の達成のため、次の事業を行う。

- (1) 地域医療確保に向けた各種活動の推進
- (2) 交流事業(会員と医師・医療スタッフとの交流促進を図ること。)
- (3) 学習活動(医師の講演)
- (4) 札幌医大地域医療活動への協力(医療調査研究活動)

(役員)

第5条 この会を運営するために、次の役員をおく。

顧問	若干名
会長	1 名
副会長	若干名
理事	若干名
事務局長	1 名
会計	1 名
監事	2 名

2. 会長は、一般社団法人 北海道中小企業家同友会 南しれとこ支部別海地区会会長とし、副会長以下の役員は会長が選任し、役員会で承認を受ける。

【参考資料】

(職 務)

第6条 役員の職務は、次のとおりとする。

会 長	会を代表し、会務を総括する。
副 会 長	会長を補佐し、会長に事故あるときはこれに代わる。
理 事	理事は会務執行方針決定に参加する。
事務局長	この会の事務処理全般を司り、組織の円満な運営を図る。
会 計	この会の会計事務を処理する。
監 事	この会の事業の執行及び会計を監査する。

(任 期)

第7条 役員の任期は1年とする。ただし、再任は妨げない。

2. 役員が欠員により就任した場合は、前任者の残任期間とする。また任期満了後であっても後任者が選任されるまでは、その職務を代理する。

(会 議)

第8条 この会の会議は、次のとおりとする。

2. 総会は臨時総会のみとし、必要により開催することができる。また、役員会は必要の都度会長が招集し、会議の議長は会長があたる。
3. 報告、決算、計画、予算、役員選任については、役員会の議決とする。

(事 業 年 度)

第9条 この会の事業年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

(収 入)

第10条 この会の収入は、会合費、補助金、法人会費（一口1万円）、個人寄付をもって充てる。

(雑 則)

第11条 この会の運営について、この規約に定めるもののほか必要な事項は、役員会の議決を経て会長がこれを定める。

(附 則)

この規約は、2009年10月1日から施行する

い い どう ゆ う 別海医療サポート隊「医良同友」入会申込書

別海医療サポート隊 医良同友
会長 寺井範男 様

趣旨に賛同し、^{い い どう ゆ う}「医良同友」に入会を希望します。

■ F A X 返信先（ 0 1 5 4 ） 3 1 - 0 9 4 4 同友会釧根事務所行

別海医療サポート隊 医良同友 入会申込書	
(フ リ ガ ナ)	
氏 名	
住 所	野付郡別海町 町 番地
電 話	
F A X	
E メ ー ル	
所属会社・団体	

〈特集4〉 地域はよみがえる

地域の医療を 自分たちの手で守ろう

～「医良同友」が目指す地域医療の姿～



寺井建設(株) (別海)

代表取締役 寺 井 範 男

別海町は香川県とほぼ同面積で人口一万六、〇〇〇人余りの酪農と漁業を基盤とした一次産業の町です。南しれとこ支部別海地区会(寺井範男会長)ではこのほど、地域住民を主体とした医療支援組織「医良同友(いどうゆう)」を立ち上げました。

「医良同友」発足の 経緯と考え方

別海地区会は二〇〇七年十一月に四十名で発会しました。今年度からは農業水産委員会も設置し、会員数は二〇〇九年十一月末で六十八社、企業組織率は二八％に上っています。

今年になって地区会で話題に上り始めたのが地域の医療崩壊に対する危機感でした。町民の健康を支える町立病院が医師の確保と定着に苦慮しています。従業員の健康に責任がある中小企業経営者として見過ごすことはできません。同友会の「三つの目的」にある良い経営環境作



りのためにも何かできることはないか。行政も頭を悩ませているこの問題に一石を投じるのが「医良同友」です。

「医師の診察を受ける経営者、従業員をはじめとする地域住民全体が地域医療について関心を持ち、医療問題について自分たちの手で積極的に解決策を模索しようというのがこの運動の根底にある考え方です」。寺井地区会長はそう語ります。

医師を取り巻く環境と 医師不足が生む問題

医師という職業はまさに二十四時間体制で生命と向き合う激務です。医師一人が受け持つ人口は地方になるほど増加し、二〇〇六年、二〇〇七年の厚生労働省の統計によると、札幌市の医師一人当たりの受け持ち人口は三二九人であるのに対して、別海町では一、六四三人と非常に高い比率になっています。このような状況から過労により体調を崩し、地方を離れざるを得ない医師や、地方勤務を避ける医師が増え、医師不足の連鎖を生んでいます。

医師数の減少は総合的な医療が行えないという弊害も引き起こします。別海町立病院では二〇一〇年三月末で小児科医が退職します。これは小児医療の専門科がなくなるということだけではありません。出産の際、分娩までは産科の管轄ですが、母体から生まれた瞬間に赤ん坊は

新生児医療を担当する小児科の管轄になります。小児科医がいなくなるということは、別海町で出産ができなくなることを意味するのです。

これまで別海町立病院の産婦人科は母子健康センターを併設し、「安全な出産」を第一に産前産後のサポートに力を入れてきました。しかし出産の体制が無くなるとせっかくのサポート体制も活用できなくなってしまう。小児科の例に限らず、他の科でも同じような弊害が生まれる恐れがあります。

「医良同友」が目指す 「わが町の病院」

「医良同友」がめざしているのは、住民一人ひとりが医師のありがたみや医療拡充の必要性を直に医科大学や政治に届くよう、自ら行動する組織です。また、医師の負担軽減を目的とした町民レベルでの医療知識勉強会や、医師とその家族が地域への愛着を持って暮らし、末長く

定着するきっかけになるよう、地域住民との交流会の開催などが企画されています。

「医師とその家族が、その地域に駆け込んでいく中で、一昔前の駐在さんのような頼れる存在として地域に親しまれることが望まれています」。山口幹事長はそう語ります。

十一月二十九日には、趣旨に賛同した同友会会員の他、町長、病院長、看護師を含めた町民一〇〇名余りの他、札幌から駆けつけた守代表理事も出席して「医良同友」設立総会が開かれました。

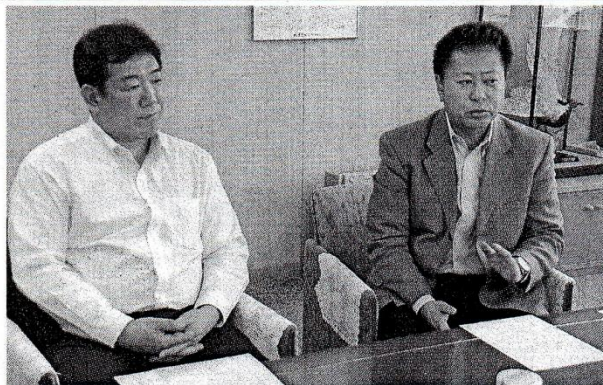
この日は日曜日で開始時刻は夕方六時。別海町立病院長から「医師が一番時間をとれるのは日曜の夜しかありません」と聞き、この時間の開催になりました。医師の職場環境を改善する手助けをするためにも、今いる医師に今後も定着して診療を続けてもらい、さらに医師を呼び込んで地域住民が安心して暮らせる地域づくりを医良同友は今

後の取り組みの中で目指していきます。

行政任せではない地域発信型の医療支援システムとしての「医良同友」の活動に、各方面から熱い視線が向けられています。

（文責 栗谷秀実）





「別海医療サポート隊 医良同友」の設立趣旨を話す
寺井会長(右)と山口幹事長

別海の医療を支え「隊」

同友会
地区会
会員100人目指し発足

【別海】道中小企業 たい考えだ。
家同友会南しれとこ支 患者の安易な時間外
部別海地区会(寺井範 受診による医師の疲弊
男会長)は、町立病院 や医師引き揚げによる
の医師やスタッフ、そ 地域医療崩壊などの話
の家族と町民の交流を 持った同友会の幹事ら
進める「別海医療サポ ート隊 医良同友」を が「行政任せでなく、
発足させた。今後、個 住民自らが動かなけれ
人会員を募り、年内に ば。同友会がきっかけ
も第1回交流会を開き をつくらう」(寺井会

長)と、11日の同友会
幹事会で設立を決め
た。

具体的な活動は今
後、町立病院とも協議
して決めるが、カヌー
や釣りなどの自然体験
や食事会、音楽会を通
して医師らに地域の魅
力を知ってもらうこと
もに、住民向けの医療
勉強会なども検討して
いる。山口幹事長は
「顔の見える交流を進
め、地域ぐるみ、家族
ぐるみの付き合いがで
きれば」と話す。

今後、町広報誌など
を通じて100人を目
標に会員を募集する。
寺井会長は「医師のた
めにも、自分や地域の
安心安全のためにも、
輪を大きく広げたい」
と参加を呼び掛ける。
問い合わせは同友会鉤
根事務所 ☎0154・
31・0923へ。

(小沢弘和)

2009年（平成21年）9月15日

中 小 企 業 家 し ん ぶ ん



北海道同友会別
海地区会幹事の
皆さん

北海道同友会別海地区会の試み 「医良同友（いいどうゆう）」で 地域の医療崩壊を食い止める

北海道

北海道同友会南しれとこ支部別海地区会（寺井範男会長・六十二社）はこのほど、同友会会員や町民による医療支援組織「医良同友（いいどうゆう）」を発会し、町立病院の医師との交流を促進することになりました。

北海道東部の酪農の町、別海町は四国の香川県ほどの面積に二万七千人の町民が暮らしています。町立病院が町民の健康を守っていますが、医師の確保と定着

が課題でした。

「地方の中小企業経営者は、従業員とその家族の健康を守ることをいつも考えています。医師が都会にはかり集中したら地方の医療は壊滅する。医師に別海の豊かな自然や人情に触れてもらい、この町に定着してほしい」と寺井会長は語っています。

これからの事業としては、医師との食事会、釣り、狩猟、音楽会、医大の地域医療調査活動への協力などが盛り込まれ、当面は百人の町民の賛同を得ることを目標としています。

同友会別海地区会は二〇〇七年十一月に四十名で発会しました。農業法人などがその後も入会し、今では

会員数六十一社、企業組織率は二五％に達しています。地区会では中小企業振興基本条例の制定運動にも力を入れ、今年の四月に条例が施行されるなど、活発に活動しています。

「医師がいないと従業員やお客さんである町民の健康が脅かされます。医良同友（いいどうゆう）の運動は良い経営環境をつくるという同友会理念に合致する」と山口幹事長は述べています。

医療崩壊を食い止めるために立ち上がった中小企業家の動向が町内から注目を集めています。

（北海道同友会釧根事務所
事務局長・米木稔）

2009年（平成21年）12月25日

中 小 企 業 家 し ん ぶ ん



バンドを組んで歌を披露した西村院長（ボーカル担当、写真中央左）

地域の医療崩壊を食い止めたいと、北海道東部の酪農の町、別海町に医療支援組織「医良同友（いりどうゆう）」が発足しました。これは、北海道同友会南しれと支部別海地区会（寺井範男会長）と別海町立病院の医師やスタッフ、町民による組織で、十一月二十九日に設立総会が開かれました。

医療崩壊は町ぐるみで食い止める

医療支援組織「医良同友」が発足 北海道・別海地区会



「町ぐるみの大きな運動にしていききたい」と話す寺井会長

十一月二十

九日、医療支援組織「医良同友」の設立総会には、同友会会員、別海町立病院の医師や医療スタッフ、趣旨に賛同した町民など百四十名が参加しました。

別海町の人口は一万六千人。今年四月には中小企業振興基本条例が施行されました。別海地区会の会員数は六十八社、組織率は二八％に上ります。医良同友には、十二月現在で約三百人の町民が登録しています。

医師不足など地方の医療崩壊が広がる中、地元企業の経営者として何とかしたいと立ちあがった別海地区会。寺井会長は、次のよう

「町ぐるみの大きな運動にしていききたい」と話す寺井会長

体調を崩した医師が地方を離れる事例が増える中、医師の負担を軽減するための取り組みや、医師とその家族が地域と住民に愛着を持つて定着できるような地域ぐるみの交流会の開催など、将来的には医師を呼び込める町づくりをしていくことが目的です。

設立総会であいさつに立った町立別海病院の西村院長は、「今まで町民の皆さんとの交流は診察以外ほとんどなかった。このような機会は大変ありがたい。町民がこの町で一生を送れるような病院体制を築くために頑張るので、応援してほしい」と語りました。

【参考資料】

(社)北海道中小企業家同友会 南しれとこ支部 会員向け報告(ホームページに掲載)

100名以上が参加して医良同友設立総会を開催

南しれとこ支部別海地区会(寺井範男会長・68社)は11月29日、「医良同友設立総会」を開き、会員100名が参加しました。「医良同友(いいどうゆう)」は住民レベルでの医療サポートを目指して発足しました。寺井会長は「地域医療を守るために出来る限りの事をして自分たちの健康を確保 する活動を行いたい」と挨拶しました。

町立別海病院の西村院長は「この町で生まれて一生を過ごせるような医療体制を確立したい。他地域とも連携して1次医療から発展させた1.5次医療へ向けた取り組みを行うため応援してほしい」と述べ、出席した来賓からも「協働の町づくりの理念に合致した事業であり期待している」、「町民一丸となつた町づくりにも繋がることで大変心強い」、「今まで医療問題はすべて行政任せになっていたが、実際に受診する住民一人一人が活動する医良同友は画期的で今後が楽しみ」など熱い期待が寄せられました。

札幌から駆けつけた守代表理事も「子供たちが将来会員になっていくような輪が繋がっていくことを期待したい。企業組織率が28%を超える別海地区会は全国トップレベルの地区会だ。全国の町村に先駆けて中小企業振興基本条例が制定されたことでも注目されている。この勢いに乗って住んで安全、くらしで安心な町づくりをしてほしい」と語りました。

当日の来賓は以下の通り。

別海町長・水沼猛氏、別海町議会議長・渡邊政吉氏、別海町副町長・磯田俊夫氏、別海町教育長・山口長伸氏、町立別海病院院長・西村進氏、同総師長・川瀬繁子氏、同事務長・真籠毅氏、別海町商工会会長・橋本淳一氏、別海町建設業協会会長・高玉政行氏、別海漁業協同組合専務理事・立澤静夫氏、大地みらい信用金庫別海支店長・村上健明氏、(社)北海道中小企業家同友会代表理事・守和彦氏

主な役員は以下の通り。

会長・寺井範男氏、副会長・山崎宏氏、篠田巖氏、鈴木麗子氏、千葉実氏、細田清氏、事務局長・山口寿氏、顧問・水沼猛氏



▲別海地区会 寺井会長



▲水沼町長



▲別海中央小学校音楽部の演奏

入院患者の心照らして

町立病院前にイルミ 「別海の 医良同友」



町立病院正面に移設されたイルミネーションツリーと寺井会長(中央)ほか21世紀会メンバー

「などはできないか」との相談を受けた。

寺井会長が仲間の21世紀会に相談したところ、建設業協会が10年以上前から、まちなかを明るくしようと、別海常盤町の道道沿いに設置していたイルミネーションツリーが、クリスマス終了で片づけるタイミングだったため、急きょ病院前の病室から真正面療講座も開くことにした。

同日は21世紀会の会員4人が協力してほぼ1日がかりで移設作業を終えた。寺井会長は「急なことだったが、心よく協力してもらった」と感謝し、今後イルミネーションも増やしたい意向だ。

大1基、中2基、色とりどりの光が点滅するイルミネーションツリーは午後4時から同10時ごろまで点灯する予定で、期間は未定だが、来年2月ごろまでは...という。

(坂上めぐみ)

【別海】まちの医療の要、町立病院を守ろうと今年11月に設立された町民組織、別海町医療サポート隊・医良同友(寺井範男会長)が町立病院の要望に応え、入院患者を慰めようと26日、別海町建設業

協会青年部の21世紀会(佐々木薫会長)の協力を得て、病院正面の町有地にイルミネーションツリーを3基設置した。総会以降初めての取り組みになる。

医良同友は町立病院の医師らスタッフと交流し、別海のよさを理解してもらって、末永く医療活動が続けてもらう支援活動を行う団体。病院と懇談する中で、病院から「病院周辺は夜暗いので患者さんを楽しませるイルミネーション

初の交流事業を満喫

別海町医療サポート隊・医良同友

医師やスタッフと冬の遊びで

【別海】自分のまちの医療は自分たちで守ろうと町民が組織した別海町医療サポート隊・医良同友(いどうゆう・寺井範男会長)は1月30日、町の景勝地茨敷沼で町立別海病院の医師やスタッフと会員の交流会を開き、約50人がワカサギ釣りやスノーモービルで冬の遊びを満喫した。病院スタッフと良好な関係を築くことで、まちの医療を守ろうと昨年11月に発足した同会としては、初の交流事業となる。

(坂上めぐみ)

晴天で無風という厳冬期と、た豚汁やおしるこ、特産のジンギスカンやバター焼きなど温かい食べ物も用意され、準備は万端。ワカサギも天ぷらで味わった。

夫人とともに参加した別海病院の西村進院長は「これだけの準備をしていたいて感謝。別海の冬ならではの行事を楽しませてもらった。この会のお陰で、広く町民の方と知り合う機会ができた。だからこそ責任も感じ、医師が地域に長くいてくれる動機にもなってくれると思う」と話す。昨年11月に石川県に家族を

残して赴任した消化器内科の宮西秀二医師は50歳になったのを機に医師不足の地域で仕事をし、社会の役に立ちたいと別海にやって来た。「こういうふうに町が応援してくれると、町のために頑張ろうという気持ちになります。来てよかったと思います」と率直に語る。

また、若い看護スタッフとともに参加した川瀬繁子総師長は「こうした機会があると、家と職場という狭い所にとら、もっと地域の人と交流したいなと感じる。地域の人の健康サポートに役立てて町民のねば。次の機会をもっとたくさんの方に参加してもらおうと思います」と笑顔で話していた。



ワカサギ釣りにチャレンジした医療スタッフ

【参考資料】

(社)北海道中小企業家同友会 南しれとこ支部会員向け報告(ホームページに掲載)

医良同友交流会に55名が 参加 別海地区会

同友会・別海地区会が中心となって発足した「別海町医療サポート隊 医良同友(いいどうゆう)」(寺井範男会長・303名)は1月30日、厳冬期の健康づくりと会員間の交流を目的として「氷上ワカサギ釣り&スノーモービル体験」を別海町茨散沼(ばらさんとう)で開催しました。

厳しい冷え込みと なったにもかかわらず55名が参加し、会員有志の提供による豚汁、お汁粉、甘酒、トバ、おにぎり、ワカサギ天ぷらが振る舞われ、参加者は白い息を吐きながら料理に舌鼓を打ちました。

挨拶に立った町立別海病院の西村院長は「このような機会を設けて頂き大変感謝している。別海町に住んでしばらく経つ がワカサギ釣りは初体験だ。スノーモービルにも是非挑戦したい」と述べました。

ベテランの釣り愛好家の手ほどきを受けた参加者は釣り挙げた活きの良いワカサギに歓声をあげていました。またスノーモービル体験でも熟練者が親子連れに同乗して湖畔を走行する等、歓声の絶えない交流会になりました。



▲寺井地区会長



▲水沼町長



▲別海病院 西村院長

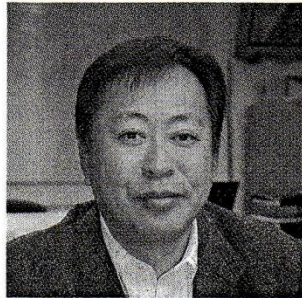




医療サポート隊

医良(いい)同友会長

寺井 範男^{のりお}さん(47)



医療環境整備 住民一体で

町立別海病院の医師や看護師と町民の交流を進め、医療スタッフは働きやすく、住民は安心できる環境をつくらうと、昨年8月発足した。昨年末に「気持ちがあめば」と、病院前にイルミネーションを設置。1月には約60人がワカサギ釣りやスノーモービルに乗って楽しんだ。「ぜひ手伝いたい」と申し出る人も。登録者は300人を超えた。「関心は高い。別海状況に応じた取り組みを今後ほしい」。希望者は道中小企業家同友会釧根事務所0154・31・0923へ。

せんこん 明日へ

医療再生を目指して

②



「医療同友」の設立総会。マーチングバンド演奏などを医療関係者と住民が楽しみ、親交を深めた。昨年11月29日、ウエディングフラザ別海

昨年11月、別海町内び掛けたのは、寺井会だ。発足時の約100人に全国でも珍しい住民長が地区会長を務める組織が誕生した。医療北海道中小企業家同友サポート隊「医療同友」会南しれとこ支部別海(寺井範男会長)。呼地区会(加盟約70社)

だ。発足時の約100人が、主婦や酪農家らも加わり現在は約300人が参加する。全国組織の中小企業家同友会で「(医療支援組織をつくった支部は)別業経営者は従業員の健康を警戒する。また、企業

別海病院の支援隊

経済人の危機感反映

海だけ」(同友会創根事務所)という。背景には、地域医療縮小に対する経済人としての危機感がある。町立別海病院も医師確保に苦勞し、昨年は一時、小児科医が新年度から不在になるという話を持ち上がった。同病院には産婦人科もあるが、生まれた子どもを診る小児科がなくなれば、産婦人科の存続

羅曰より1年早く、新年度から建て替える着手する市立根室病院への寄付の累計も8500万円を超えている。羅曰は「昨年、病院から診療所へと縮小され、根室も医師不足に悩まされてきた。良い施設を造って地域の医療を守ってほしい。この不況の中で相次ぐ寄付からは、町民、市民の危機感の強さが透

も困難になる。後任医師を確保できなかった小児科医不在は回避できる見通しだが、寺井会長は「子どもを産めない環境では人が定着しない。ひいては地域経済も成り立たなくなる」と、医療崩壊による過疎の加速を警戒する。また、企業経営者は従業員の健康を警戒する。また、企業

内外からの寄付額を表して見える。寄付の累計はなんと2億500万円(23日時点)。1980年に設けられた国保病院(当時)建設基金も引き継がれているものの、人口6100人の病院の医師、看護師やその家族と会員合わせて50人余りが、厳寒の道東を楽しんだ。根室市で活動する「ねむろ医心伝信ネットワーク」同様、「住民も、